様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：１３６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｈ０２３０１

研究課題名（和文）ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造

研究課題名（英文）Breaking Through Global and Local Boundaries: An Artistic Expression Through the Tradition and Creation of Body Techniques in the Southeast Asian Performing Arts

研究代表者
北村　明子（KITAMURA, AKIKO）

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：４０３３４８７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本を含むアジア、とりわけ伝統芸術と現代の表現が強く繋がりを持つ東南・南アジアにおける現代の舞踊舞台芸術の創作方法論について考察を行った。伝統から得る現代舞台芸術における創作方法論の探求の際、「グローバル時代における民族文化とは何か、民族芸術の豊かさとは何か」を課題とし、フィールドワークを重視した創作プロセスと、各国各地域における研究発表とフィードバックにより実践的に検証した。最終的に、土地の共同体と社会の倫理、伝統性と芸術文化の構造に基づく文化の理解と、それを起点とした身体的価値の創造を見出す創作方法論を考案し、それに基づく舞台創作実践の成果発表を各国各地域にて行い、高い評価を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
歴史的継続性や伝承性よりも、進化論的な先端性を求めて発展した一方で、創造性を一方向性に決定づける閉塞感をも生み出した日本の現代舞台芸術において、新たなアジアの芸術創造の形を見出す可能を示すことができた。また、調査過程や研究成果などを、映像・音楽の非言語領域による技法の伝達をも含める形式にて推進し、言語を超えたイメージによる表現コミュニケーションの重要性を実証することができ、そのアーカイブズ作成は、ローカルな文化遺産としてのみならず、現代に機能する力として示し、グローバルなものとローカルなものとの対立を乗り越えるひとつの可能性を、理論的・実践的な方法論で示した。

研究成果の概要（英文）：I conducted a study on the methodology of contemporary dance theater in Southeast and South Asia, focusing on the connection between traditional arts and modern expressions, including Japan. I explored creative methodologies in contemporary stage arts derived from tradition, addressing the questions of ethnic culture in the global era and the richness of ethnic arts. Through fieldwork, research presentations, and feedback from various countries and regions, I validated the investigation. Ultimately, I devised a creation methodology that aimed to discover a cultural understanding based on local community, social ethics, traditional and artistic structures, and the creation of physical value. The stage creation practices based on this methodology were presented and received high acclaim in multiple countries and regions.

研究分野：身体論　舞台芸術　舞踊学

キーワード：舞踊学　舞台芸術　身体技法　身体論　メディア論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

舞台芸術は、現代社会において、国民や国家、ジェンダーやセクシュアリティーなどのさまざまな境界線を再考し、異文化との対話や自国社会の「異物」との接触を通じて、個々の立場や文化の共存方法を思考する貴重な場である。私たちが自身のアイデンティティを「今、ここから」見つめ直し、他者とのつながりを築くための装置として、社会における重要な役割を果たし得る。伝統と現在、地域と多民族・国家が多様に融合するグローバル時代における、新たなコミュニケーション方法の思考展開として、現代に生きる地域特有の身体表現・舞台芸術の、国際的発展につながる実践研究が待たれていた。

欧米を中心とした舞踊舞台芸術では、既存の表現方法にはない新たな表現手法を生み出す進化的な思考に基づく身体表現の創作方法が重要視されてきた。一方、東南～南アジアをはじめとするアジアでは、その土地に根ざした伝統芸能は豊かに生活文化に浸透していたが、現代的な舞踊表現との結びつきについては強く意識されてはこなかった。また、日本の舞踊舞台芸術は、欧米の劇場シーンの影響を強く受け、現代の舞踊表現と、土地の伝統的な生活文化とはある種、切り離された別のものとして捉えがちであった。日本を含むアジア、とりわけ伝統芸術と現代の表現が強く繋がりを持つ東南～南アジアにおける舞台芸術の現在について、欧米の美学の影響が強く残る既成の価値観で解釈するには不十分である状況に対し、創作・表現者側からの具体的解決策の提示は多くは実施されていなかった。

構造主義人類学が明らかにしてきたように、ローカルな文化とは、本来、固有の論理と身体性によって構成され、それを「一般的」な尺度で判定することはできない（cf. C・レヴィ＝ストロース『野生の思考』）。だが、グローバリズムの中、欧米の文化・思考の尺度により、伝統的な身体がそこに住む人々の生活・文化を表現・構築する本来の役割と価値を失っていく様相がある。民族舞踊の観光化は経済的に通用する一般的な形式のもとに再構成した代表例だが、そこでの伝統芸術は土地に根付いた「野生」に基づくものではなく、グローバルな尺度で再構成された「ローカルな文化」である。ここにおいて、「一般的」な尺度によるグローバルリズムを外部要因とすると、伝統芸術を守るコミュニティーの保守性や「ナショナリズム」といった内部要因も無縁ではない。このような現代、多様性ある身体表現の方向性の中に、ローカルな身体文化や生活文化の様相とのつながりに対して、現代の舞踊創作方法論について、より意識的に多角的な視野を持ち、思考を切り開く必要があった。

２．研究の目的

本研究の目的は、現代における東南アジアの地域伝統文化の実践・継承と、その基盤となる地域社会の役割を、グローバル、ローカル、ナショナルの各次元において、多様さと矛盾を明らかにしながら検証し、現代舞台芸術の創作方法論を見いだすことであった。欧米型の舞台芸術の技術や論理から逸脱するアジアの芸術表現の現在を、「グローバル時代における民族文化とは何か、民族芸術の豊かさとは何か」という思考回路を切り開くことにより考察することを狙いとした。そこで、本研究では、伝統文化が日常生活に豊かに浸透する、東南～南アジアにおいて、伝統舞踊・武術・儀礼や音楽の身体技法についての継承方法がどのようになされているのか、またそれらの身体技法を「今」という表現に向けられる視点からどのように捉えうるのか、についてリサーチ・分析・考察することが、日本社会における身体芸術表現のあり方を再検証するにあたり極めて重要であると考え、地域の伝統的な文化理解を、現代の芸術領域の視点から多角的に考察することを課題とした。

これらの課題から、伝統舞踊や武術、音楽など伝統芸能を研究対象とし、その種類や伝承方法、現代の状況について、フィールドワークにより立体的に捉え、そこに生きる人々の身体的アイデンティティ形成において決定的に重要な役割を担う、舞踊、武術等の身体技法や音楽が現代に与える影響について領域横断的に考察することを狙いとした。その際、客観的な外部者のリサーチ・分析視点と内的視点を含めた身体技法や手法の伝承についての考察が必要であるため、芸術領域のみならず、哲学、人類学、芸能実践者、ジャーナリストほか、様々な専門家らとの研究会を重ね、課題を精査し、議論を進める体制による研究推進を原則とした。このような、学術性・実践性を融合した領域横断的研究体制により、現代の舞踊表現における伝統と現代の融合と発展について、「表現する創造的行為の多様性、創発性」と「鑑賞し解釈し、伝承されていく環境の継続性」についての可能性を探ることを目標とした。

３．研究の方法

東南～南アジアの舞台芸術研究における伝統文化の現在の位相を、代表研究者の振付家としての活動経験基盤を活かし、国際的研究機関・劇場の協力を得て研究推進。長期的変化を検証するため、カンボジア、ミャンマー、インドネシア、タイ、インドなどの各研究対象地域について、以下のフローに沿って多角的に研究考察を行った。５年間の研究期間では、以下①～③の過程を経て、先行文献では網羅できない対象地域の「今、ここ」をふまえ、主に現地の実践研究者・芸術家らとの共同研究及び調査から、生きた声や現象をとらえるためフィールドワークと考察、報告会を重ねた。さらにそれらを元に④～⑦の過程では日本と東南アジアとの対話により生成さ

れる新たな国際共同制作の表現方法をケーススタディーとして提案・発表し、そのプロセスについて特設 web サイトにてアーカイブ化した。

① 対象地域の伝統と現代芸術文献リサーチ（国内外）、研究会：研究対象地域の伝統芸術における身体技法に共有されたテーマ設定について、その社会背景、芸術領域背景をリサーチ・分析。
② フィールドワーク・報告会：現地フィールド調査にて①について検証。また、他のアジア文化圏との比較研究も同時に行う。
③ 現地ワークショップ、報告会・調査（国内外）：①、②をふまえ、それぞれの身体技法について、地域社会の共同体内部の視点、欧州など別地域における国際的な外部の視点の比較検討。
④ ①～③に基づく舞台創造研究、報告会：③の内容を踏まえ、現代舞台芸術と伝統芸術の思想、技法のつながりと対話がどのように可能かを、舞台芸術作品のクリエーションや舞台作品コンセプトレベルで検証。
⑤ 国際共同舞台制作、実践践研究発表：④の内容を踏まえ、日本と東南アジアの国際共同制作プロジェクトの新しいクリエーション形式を実施。ケーススタディーとして複数の国・劇場・研究機関にて研究発表の実施。
⑥ ドキュメンテーション・報告会：①～⑤の過程のクリエーションプロセスについて、今後の国際共同制作の新しい形式例として視聴覚資料やデータ記録の整理。またその内容を報告会にて発表し、フィードバックを得ることにより客観的評価を確認。
⑦ 論文作成、視聴覚資料のアーカイブズ作成：⑥の内容を踏まえ、研究プロジェクトの内容を学会にて発表、論文化。研究プロジェクトの視聴覚資料やデータ記録などを特設 web サイトにてアーカイブズ作成を実施。

４．研究成果

東南～南アジアの地域を中心とし、土地に脈々と伝承される生活文化、伝統芸能、儀礼、武術についてのフィールドワークを実施。また、海外研究者・専門家らを招聘し、国内外にて一般公開形式によるワークショップ、レクチャー・ディスカッションなどの交流事業を実施。研究対象地域では、以下のようなフィールドワークを行った。カンボジア：プノンペン、シェムリアップにて、それぞれポルポト政権時代に伝承者の多くを失った、消えゆく伝統身体技法の現在について考察と現代舞踊の現在についての調査・分析。伝統舞踊を継承し、世界各国でその紹介活動を行う一方で、現代の舞踊表現方法を模索し、海外とのネットワークも広げる Amrita Performing Arts との実践共同研究や、伝統芸能の保全を行う Cambodian Living Arts の活動、精霊儀礼音楽（Areak）などについて調査し、内的視点を含めた身体技法や手法の伝承やその活動意義についての調査・分析・考察を行った。また、現代の写真家、映画監督、ジャーナリスト、ポップス歌手、美術作家らとの交流も行い、現代の身体表現における伝統と現代手法の融合やそのテーマ性について議論を重ねた。ミャンマー：ヤンゴン、マンダレーにて、Thaing（伝統武術）や、それぞれ多様な少数民族が口頭伝承する伝統武術の身体技法、高校、大学におけるブルマ伝統舞踊のカリキュラムや大衆芸能ザッポエにおける舞踊演出のリサーチを行い、内外の視点からその伝承や現代における流布についての考察を行った。また、タウンビョン精霊祭りにおけるシャーマニズムについての調査を実施。インド：インド政府、隣州との情勢が不安定なマニプール州にて、先住民族の伝統芸能保全活動を行う Laihui(伝統芸能保全団体)や伝統儀礼 Sankirtana でも重要な役割を果たす Thang Ta 武術についての調査・分析（インパール）を行った。インドネシア：伝統武術プンチャック・シラットの様々な流派を横断的に統括する Tantungan Project / Pencak Malioboro Festival 5(ジョグジャカルタ)に参加し、各地域の古武術から、競技シラットまで、その身体技法の背景や思想を調査した。また、スマトラ島では、Minangkabau Silek Reatreat 2017（パダンパンジャン）に参加し、「Silek(シレ)」の伝承と現代について調査を行った。タイ：ランナー 伝統古武術（チェンマイ）の身体技法の調査を行った。これらの研究プロセスを経て、それぞれの身体技法の背景にある土地の思想、信仰、儀礼や演芸興行において重要な役割を果たし、現代の日常生活へと浸透する伝統芸能、武術、舞踊、音楽について改めて分析し、それらが現代の身体表現への影響をどのように持ちうるかを国内外の共同研究者らと考察。伝統と現代の身体表現手法の創発を目指した国際共同制作による舞台芸術の創作方法論を考案し、舞台創造活動実践研究 *Cross Transit project* として、東京（シアタートラム）、横浜（神奈川芸術劇場）、松本（まつもと市民芸術館）、プノンペン(Department of Performing Arts)、N.Y.（Japan Society N.Y）ワシントン D.C.(Kennedy Center)など、各国各地域にて発表を行い、国内外にて高い評価を得るとともに、専門研究者・批評家、一般鑑賞者から幅広く貴重なフィードバックを得ることができた。自国の歴史的継続性や伝承性よりも、ある種の進化論的な先端性を求めて発展した一方で、創造性を一方向性に決定づける閉塞感をも生み出した日本の現代舞台舞踊芸術における、一つの新たなケーススタディーを提示することができた。

また、映像・音楽の非言語領域による技法の伝達を多用したフィールドワークは、調査過程や研究成果についての現地での意見交換において、言語を超えたイメージによる表現コミュニケーションを可能とした。さらに、それらのアーカイブズ作成は、ローカルな文化の文化遺産としてのみならず、現代に機能する力として示すことで、グローバルなものとローカルなものとの対立を乗り越えるひとつの可能性を記録として示すことができ、継続的な研究成果の発信にも大いに効果を果たしている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計41件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　11件／うちオープンアクセス　15件）

１．著者名 荒谷大輔	４．巻 1
２．論文標題 「「搾取」のない経済圏の可能性：マルクスの剰余価値論再考」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 江戸川大学編『江戸川大学紀要』第32号	６．最初と最後の頁 285-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒谷大輔	４．巻 1
２．論文標題 「ハートランド：信頼に基づく新しい経済圏の社会実装」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 江戸川大学編『江戸川大学紀要』第32号	６．最初と最後の頁 293-311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒谷大輔、他	４．巻 1
２．論文標題 共著「熟議民主主義とゼロ地点化：ハートランドにおける「裁判所」の役割」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 江戸川大学編『江戸川大学紀要』第32号	６．最初と最後の頁 313-320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒谷大輔	４．巻 1
２．論文標題 「哲学者が語る「人がサイボーグになる」の深い意義：「ゼロ地点に立ち返る」ネオ・ヒューマンの思考」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東洋経済ONLINE https://toyokeizai.net/articles/-/450204	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村尾静二	4．巻 1
2．論文標題 「映像による異文化の理解はいかにして可能か ー　1930 年代・バリ島・映像人類学」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 清泉女学院大学人間学部研究紀要 No.19	6．最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村尾静二	4．巻 1
2．論文標題 「イメージと映像の文化史　ー　洞窟壁画から映画へ」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『文化学のすすめ ― 多様化する社会を読み解く10の視座』 清泉女学院大学文化学科編（小泉真理・村尾静二編集）、清泉女学院大学人間学部文化学科、2021年。 所収論文	6．最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村尾静二	4．巻 1
2．論文標題 「旅することの思想」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『文化学のすすめ ― 多様化する社会を読み解く10の視座』 清泉女学院大学文化学科編（小泉真理・村尾静二編集）、清泉女学院大学人間学部文化学科、2021年。 所収論文	6．最初と最後の頁 114-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 「アジアにおける土地の芸能、心・技・体の伝承と現代芸術表現への創発」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『京都造形芸術大学 共同利用・共同研究拠点 「アニュアルレポート」』2019年度	6．最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 舞台作品　Echoes of Calling	5．発行年 2021年
3．雑誌名 スパイラルホール／eplus オンライン配信	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 Echoes of Calling - Encounter -	5．発行年 2021年
3．雑誌名 vimeo オンライン配信	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 KAAT 神奈川芸術劇場	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 Echoes of Calling - Gushland -	5．発行年 2022年
3．雑誌名 スパイラルホール／eplus オンライン配信	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 Cross Transit Project 『梁塵の歌』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 シアタートラム	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 北村　明子	4．巻 1
2．論文標題 Echoes of Calling	5．発行年 2020年
3．雑誌名 SHIBAURA HOUSE	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 1
2．論文標題 「『フランス現代思想』のその後：社会運動の観点から（日本倫理学会第七十回大会 主題別討議報告）ー(フランス思想の現在)」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『倫理学年報』日本倫理学会	6．最初と最後の頁 89-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 1
2．論文標題 「衣服は嘯(うそぶ)く：服を着ることの『真理』 (特集 自己(2))」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『Fashion talks...： the journal of the Kyoto Costume Institute：服飾研究 10』京都服飾文化研究財団	6．最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 1
2．論文標題 「ECONOMICS A TO Z：哲学者 荒谷大輔と読み解く〈経済学のことば〉」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HILLS LIFE <Daily> 2020年2月4日. https://hillslife.jp/learning/2020/02/04/economics-a-to-z/.	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 1
2．論文標題 「哲学者的アプローチで読み解く：経済学の言葉」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HILLS LIFE, 2020年1月	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 1
2．論文標題 「アベノミクスは『信仰』に過ぎない？ 日本経済の限界が近い理由：哲学者が語る現代経済のしくみ」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 現代新書 ｜ 講談社 (blog) 2019年8月31日 https://gendai.ismedia.jp/articles/-/66829	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 北村　明子	4．巻 1
2．論文標題 Blind Trip - SKIN REIMAGINED-	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ACE DANCE AND MUSIC主催	6．最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 荒谷大輔	４．巻 1
２．論文標題 「右・左はもういらない…ルソーとロックで理解する社会の本当の姿：哲学者が語る近代のしくみ」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 現代新書 ｜ 講談社 (blog)、2019年8月29日	６．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒谷大輔	４．巻 1
２．論文標題 「社会って、本当にこうでしかありえないの？：哲学が教えるゼロから見直す方法」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 現代新書 ｜ 講談社 (blog), 2019年8月23日	６．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 北村明子	４．巻 1
２．論文標題 身体が語り得ること／舞踊創作の現場から	５．発行年 2020年
３．雑誌名 中部哲学会年報51号	６．最初と最後の頁 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 北村明子	４．巻 1
２．論文標題 「北村明子インタビュー：身体の可能性と向き合うことが、ダンスのミッション」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Chacott Dance Cube　2020年2月7日	６．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 2巻中1巻
2．論文標題 2019年度　基盤研究(B) 「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」 実践研究発表報告及び、舞台制作映像素材映像素材リスト(1.S8_CT2019.mp4 ／2.実践研究発表報告)	5．発行年 2019年
3．雑誌名 youtube：mp4https://www.youtube.com/playlist?list=PLztXyf2fD5uf32QlaXjrbApSNBbaTW558	6．最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 2巻中1巻
2．論文標題 2019年度　基盤研究(B) 「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」 実践研究発表報告及び、舞台制作映像素材 ：舞台美術制作図面等	5．発行年 2019年
3．雑誌名 youtube：https://drive.google.com/file/d/10VOi-A4DEAvAGhCKTWOarzO4OOxW6iST/view?usp=sharing	6．最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村明子	4．巻 2
2．論文標題 Cross Transit Project 「土の脈」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神奈川芸術劇場（KAAT）／　まつもと市民芸術劇場	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 3
2．論文標題 Cross Transit	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Japan Society NY/John F. Kennedy Center Washington DC/Stephens Hall Theatre Towson	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 荒谷大輔、岡田大助、鈴木哲平、福島亜理子、石野一晴、市川貞男、市村由起、大竹洋平、佐古仁志、中原真祐子、田上大輔、羽村太雅、皆吉淳延	4．巻 1
2．論文標題 「初年次教育のための教材・方法研究および＜メタボリック＞な教材・カリキュラムの開発――江戸川大学「アカデミック・スキル演習」の試みをつうじて――」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『Informatio』vol. 16、江戸川大学情報研究所	6．最初と最後の頁 pp.25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 3巻中１巻
2．論文標題 「土の脈　美術装置１、2018年度　基盤研究(B)「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」実践研究発表報告」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 https://drive.google.com/file/d/1wbd2vmoNO0lBcKAIXP4l2Nbf5PpG3LoB/view?usp=sharing	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 3巻中２巻
2．論文標題 「土の脈　美術装置2、2018年度　基盤研究(B)「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」実践研究発表報告」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 https://drive.google.com/file/d/1HJyXYrKVd9z532diMLiV7kyME7OXuocd/view?usp=sharing	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 3巻中３巻
2．論文標題 「土の脈　美術装置3、2018年度　基盤研究(B)「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」実践研究発表報告」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 https://drive.google.com/file/d/1Kgd-BC8fZwW8vlImcDLxtmtKiF2cqP7T/view?usp=sharing	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 兼古昭彦	4．巻 1
2．論文標題 2018年度　基盤研究(B) 「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」 実践研究発表報告及び、プロジェクター用映像素材	5．発行年 2018年
3．雑誌名 youtube URL https://www.youtube.com/playlist?list=PLztXyf2fD5ueSdSRg6jtj54Sevv2cMOMJ	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 棚沢順	4．巻 1
2．論文標題 2018年度　基盤研究(B) 「ローカルとグローバルの対立と超克－東南アジア舞台芸術における身体技法の伝承と創造」実践研究映像アーカイブ制作（FHD、国際交流舞台制作企画　Cross Transit 「土の脈-vox soil」より）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Youtube URL https://www.youtube.com/watch?v=SKCxV2ceEA4&feature=youtu.be	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村明子、兼古昭彦	4．巻 1
2．論文標題 舞台作品「Daku～Cross Transit からのスピンアウト～」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 六本木アートナイト2017	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 国際共同制作プロジェクト舞台作品『Cross Transit』カンボジア・プノンペン版	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Department of Performing Arts（カンボジア・プノンペン）	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 北村明子	4．巻 1
2．論文標題 アジア国際共同制作プロジェクト舞台作品「 Cross Transit "vox soil"」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 せんがわ劇場、東京	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 荒谷大輔、鈴木哲平、岡田大助、福島亜理子、田上大輔、大竹洋平、石野一晴、羽村太雅、中原真祐子	4．巻 28号
2．論文標題 「大学教育において求められる「新しい教養」の検討：江戸川大学における「アカデミック・スキル演習」の導入」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『江戸川大学紀要』	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔、鈴木哲平、岡田大助、福島亜理子、田上大輔、大竹洋平、石野一晴、羽村太雅、中原真祐子	4．巻 28
2．論文標題 「「新しい教養」のための「チーム・ティーチング」：江戸川大学、基礎・教養教育センターの実践例」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『江戸川大学紀要』	6．最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒谷大輔	4．巻 28号
2．論文標題 「現代社会における「自由と必然」の問題：縦読みの思想史研究の試み」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『江戸川大学紀要』	6．最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 村尾静二	４．巻 2号
２．論文標題 「映像人類学の学術的枠組み－理論と実践を中心に－」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『日本映画大学紀要』	６．最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　13件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 荒谷大輔
２．発表標題 「第四の輪と「制止・症状・不安」」、日本ラカン協会第21回大会、大会シンポジウム「ジョイス・結び目・精神病：『サントーム』をめぐって」
３．学会等名 オンライン（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「コンテンポラリーダンスをめぐって」
３．学会等名 TPAMエクスチェンジ・JaDaFoダンスシンポジウム2021（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「からだが語り得ること ―コンテンポラリーダンスの現在から―」
３．学会等名 JIAトーク2021JIA関東甲信越支部 JIAトーク実行委員会主催　オンライン（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「ライブでしか伝わらないものとは何か？　教育、育児、ダンスの現場から」
３．学会等名 東京芸術祭2021 シンポジウム（東京芸術祭実行委員会主催）オンライン（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 実習①「表現・ダンスの魅力」
３．学会等名 第54回全国女子体育研究大会JAPEW SUMMER SEMINAR 2021オンライン
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 『日本のコンテンポラリーダンスの現在』ー　コンテンポラリーダンス創作現場から　ー
３．学会等名 文化交流使
４．発表年 2021年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 『日本のコンテンポラリーダンスの現在』ー　コンテンポラリーダンス創作現場から　ー
３．学会等名 文化交流使
４．発表年 2022年

１．発表者名 荒谷大輔
２．発表標題 「荒谷大輔さんと『資本主義に出口はあるか』を考える」
３．学会等名 Presented at the アカデミーヒルズ「みんなで語ろうフライデーナイト vol.33」、六本木 2019年、12月6日（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 荒谷大輔
２．発表標題 「資本主義に出口はあるか：現代社会を分析する、第一回『右／左の区別とロック、ルソー』」
３．学会等名 Presented at the 朝日カルチャーセンター，新宿，2020年1月31日（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 荒谷大輔
２．発表標題 「資本主義に出口はあるか：現代社会を分析する、第二回『ロックからアダム・スミス』」
３．学会等名 Presented at the 朝日カルチャーセンター，新宿，2020年2月14日（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「未知の身体力～ダンスとの出会い」
３．学会等名 名古屋哲学学会講演会・中部哲学学会共催公開シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 AKIKO KITAMURA
２．発表標題 "Choreographic Research―Textures, Relationships, and Principles Regarding the Body"
３．学会等名 Seoul International Choreography Workshop, Seoul Dance Center主催（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「遠くて近い・・・武術と舞踊の刺激的な関係」
３．学会等名 放送大学長野学習センター（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 荒谷大輔
２．発表標題 「「倫理学における自然」とは何か」
３．学会等名 日本倫理学会第６９回大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村尾静二
２．発表標題 「ミナンカバウ人社会とシレ―文化人類学的考察」
３．学会等名 日本プンチャック・シラット協会主催による教養文化講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 北村明子
２．発表標題 「身体のゼロ地点」
３．学会等名 第24回美術解剖学会大会（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計6件

１．著者名 荒谷大輔	４．発行年 2021年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 217
３．書名 『使える哲学：私たちを駆り立てる五つの欲望はどこから来たのか』	

１．著者名 荒谷大輔	４．発行年 2019年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 273
３．書名 『資本主義に出口はあるか』	

１．著者名 荒谷大輔、編集者： アカデミーヒルズ、森美術館	４．発行年 2020年
２．出版社 NTT出版	５．総ページ数 9
３．書名 「ゼロへの欲望：ポスト資本主義社会における幸福」（『人は明日どう生きるのか：未来像の更新』より）	

1．著者名 信田敏宏ほか編、村尾静二	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 -
3．書名 『東南アジア文化事典』「ミナンカバウ」	

1．著者名 荒谷大輔	4．発行年 2018年
2．出版社 講談社	5．総ページ数 269
3．書名 『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』	

1．著者名 荒谷 大輔、小長野 航太、桑田 光平、池松 辰男	4．発行年 2018年
2．出版社 せりか書房	5．総ページ数 250
3．書名 ラカン『精神分析の四基本概念』解説	

〔産業財産権〕

〔その他〕

映像作品Echoes of Calling -encounter-(兼古昭彦作成) https://youtu.be/96jpeW0YZl0
北村明子の身体をめぐる日々のあれこれ2020年1月10日https://ctblog-kitamura.tumblr.com
IMPRESSIONS:"Cross Transit" at Japan Society with The Dance Enthusiast : https://www.dance-enthusiast.com/features/impressionsreviews/view/2156/?utm_source=dlvr.it&utm_medium=twitter
Akiko Kitamura's Cross Transit The Dance Enthusiast : https://criticaldance.org/akiko-kitamuras-cross-transit/?fbclid=IwAR3nekWxW3hVXLfNc40jBidg7sM403GjS_moWimoxG8I9tfd07Z2yBJR2ys
Akiko Kitamura's Cross Transit Japan Society NY: https://www.japansociety.org/event/akiko-kitamura-cross-transit
Akiko Kitamura's CROSS TRANSIT Tonight Broadway Worlds: https://www.broadwayworld.com/bwwdance/article/Japan-Society-Presents-Akiko-Kitamuras-CROSS-TRANSIT-Tonight-20190322
Cross Transit プロジェクトスタディトーク https://setagaya-pt.jp/workshop_lecture/201712_dancect.html
Cross Transit Process&Archive http://www.akikokitamura.com/crosstransit/process/index.html
Khmer Times https://www.khmertimeskh.com/91299/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	荒谷　大輔 (ARAYA DAISUKE) (40406749)	江戸川大学・基礎・教養教育センター・教授 (32518)	
研究分担者	兼古　昭彦 (KANEKO AKIHIKO) (40626636)	東京家政大学・家政学部・教授 (32647)	
研究分担者	棚沢　順 (KURUMISAWA JUN) (50337713)	千葉商科大学・政策情報学部・教授 (32504)	
研究分担者	村尾　静二 (MURAO SEIJI) (90452052)	清泉女学院大学・人間学部・講師 (33605)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Japan Society Performing Arts 2018-2019 実践研究作品の上演	2018年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インド	Laihui			
カンボジア	Amrita Performing Arts			
インド	Laihui			
インドネシア	Tantungan Project			